

2022年12月2日  
日本船主協会 企画部広報室

## 海運の重要性を教育の場で ～東京都内にて出前授業および海事施設の見学会を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力や各種資料の提供などに取り組んでおります。

今般、当協会では、東京都中野区立北原小学校5年生約60名を対象に、11月15日（火）に出前授業を、11月24日（木）に川崎汽船およびダイトコーポレーションの協力を得て、大井コンテナターミナルの見学会を夫々実施しましたので、その模様をお知らせいたします。

### <出前授業>

初めに、飲食チェーン店で使用する原材料の産地などを例示したり、衣服の生産工場を提示、日本は多くの身の回りの物を海外からの輸入に頼っていることや日本にとって貿易は欠かせない活動であることを紹介しました。その後、貿易における海運の役割や貿易量のうち99%以上を海運が担っていることなどについてクイズも交えながら説明し、海運の重要性を伝えました。



次に、同校は大井コンテナターミナルを見学する予定であったことから、コンテナおよびコンテナ船に主眼を置いた内容で授業をすすめ、日用品等の多くはコンテナ船で運ぶことや、コンテナ型の小物入れも活用しながらドライコンテナやリーファーコンテナ以外にも、運ぶものに応じて様々なコンテナがあることを説明した他、どのように荷役されているか動画を使って紹介しました。

この他、貨物がどのような航路で日本まで運ばれているか児童に考えてもらい、配布した白地図に予想航路を書き込んでもらいました。答え合わせではパナマ運河を通る航路を紹介し、同運河の概要や役割（航海日数が短縮できる）も解説しました。

また、コンテナターミナル見学会後に、東京湾を社会科見学船にて見学する予定となっていたころから、品川ふ頭に停泊している RORO 船にも触れ、運んでいる貨物や船内の様子も画像や動画を使って紹介しました。



児童の反応も良く、終始和やかな雰囲気が出前授業は終了し、授業後児童からは「海運が日本にとって大切だと分かった」「船が見るのが楽しみになった」といった声が聞かれました。

#### <大井コンテナターミナル見学会>

ダイトコーポレーション担当者とともにバスにてターミナル内を周遊し見学しました。バス車内では、同コンテナターミナルの概要、コンテナにはどのような貨物が入っているか、ガントリークレーンやトランスファークレーンの役割などについて説明がありました。児童からは「(先日の) 授業の時に勉強したコンテナ (ONE) がある」といった反応がありました。



ダイトコーポレーション担当者ご説明の様子



見学の様子

当日はコンテナ船が数隻寄港しており、荷役の様子を間近で見学、児童たちはコンテナ船やガントリークレーンの大きさに驚いた様子でした。児童より「コンテナをつかめなかった時はどうするのか」「荷役中にコンテナを落とすことは無いのか」などの質問が挙がり、同社担当者が夫々の質問に丁寧に回答しました。



見学会終了後、児童からは「コンテナ船の迫力が印象に残った」「正確に貨物を揚げる降ろしできるのが凄かった」といった感想があり、海事産業に対し理解を深めていた様子でした。

その後児童たちは社会科見学船に乗船し、海からコンテナ船・RORO船やコンテナターミナルを見学しました。

当協会は、今後も会員会社や海事関連企業などと連携しながら、海事産業をより教育に取り上げてもらえるよう広報活動に注力してまいります。

以上